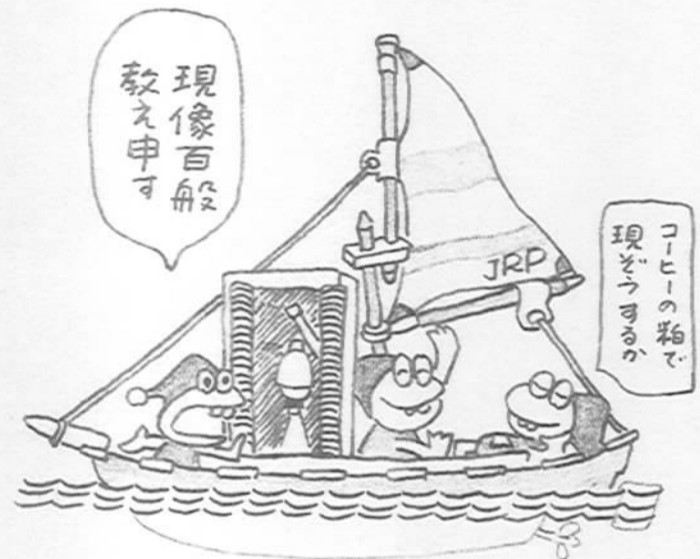


ちゅう先生が誕生した

いろはカルタに宮間に聞けというのがあったけれど、この話はそれとはまったく無関係——
「宮間さんに聞くとわかり易い、現像と引伸しのことはあの人に聞こう」が、いつのまに評判になったやら。評判が評判を呼ぶとこれが定評となる。それで教えてほしい人が眼白押し。もはや逃がれられぬと観念された彼の所へ スミスさんからの使者、支部長に三顧の礼をつくされれば万事休す。さすかの彼も泣く泣く快く引受けたのが支部の 写真の基礎を考える 専任講師。人呼んで 宮間中先生。

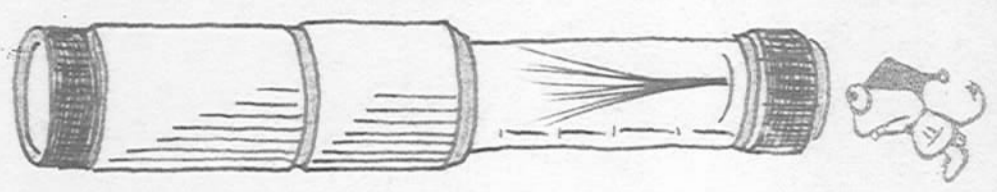


さてその第1回実技教室が下記のように計画されました。

6月17日 夜から夜
於 喫茶つ 冷房あり 先着申込順
受講人員5名限定 (見学は無制限)
印画紙代実比

申込みは 喫茶つまで

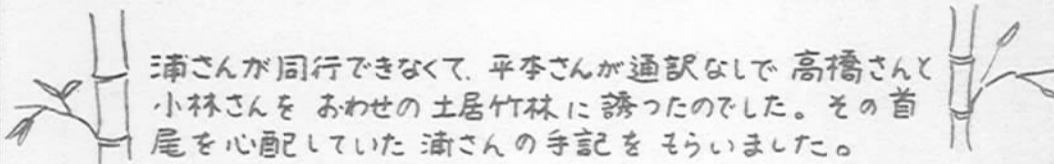
写真集「視覚」第4回公募作品 収録を6月5日までに支部でまとめて購入申込することになりました。
三重支部としての消化目標は82冊です。
デラックス版 定価3,500円
スタンダード版 " 2,700円
写真の「史」に生き残る写真集であることは間違いありません。



でんわでモシモシ ズームレンズは 是か否か

ある日とつ然、でんわでたすねました。ズームレンズを どう思いますか？
「即答して下さい。すぐ言って下さい。早よう言え、直ぐ言へ、今言え、ホウ言え」と相手に考えるひまなしで質問を浴びせました。

- 清水さん ズームも良くなったと聞いているけれど、単体レンズに勝てるわけがない。「買けないくらい」になれば結構としましょ。やっぱりピントが大切ですよ。ボケ味もね。一でんわの向こうにフラッシュの曲が流れていた——
- 一樹さん 調法してますよ。ボクの場合スナップショットが主体だから、とつさの時に距離あわせが便利なんです。80ミリから200ミリ。自在ですよ。要するに便利。ピントの良しあしを上回る利点あります。しかしその調法さをえとくするのにはかなりの時間が必要でした。途中で手放そうかと思ったことがあるほどでした。——理路整然としていて、聞いててズームが欲しいと思う——
- 仁さん レンズの枚数が多いのが宿命ですから絞れば当然コントラストが落ちるでしょう。逆光線にも弱い理屈です。それからズームングのお遊びをしてみたい。風景もスナップでも単体レンズでひたりと圧えるべきです。プロは仕事の都合がありますが 私たちはあまり使うべきではないと思います。——いかに「要りません」という感じ。彼はゼツタイ買わん、と思った——
- 柳生さん 昨日否定して今日は肯定したい。そんな気持ちです。私は35~70です。十津川撮影会の時は夢中で使っていました。イエスカノーか今のところなんとも言えません。——柳に風とはこのことか——



浦さんが同行できなくて、平本さんが通訳なしで高橋さんと小林さんをおわせの土居竹林に誘ったのでした。その首尾を心配していた浦さんの手記をもらいました。

古市例会の夜に 浦 栄子

5月13日 平本さん高橋さん小林さんがオワセの竹林へ撮影に行かれたときの話です。
浦「平本さんと一緒にいられた竹の撮影はどうでしたか？」
高橋「平本さんは心がやさしくて親切で本当にうれしかったです。1條りに平本さんのお家で、お夕飯をご馳走になりました。心から有がたを伝えて下さい。」
小林「私も高橋さんと同じ気持ちです。とてもうれしかったです。よろしくお伝え下さい。あの日5本も写したのに2本現像で失敗してがっかりしています。」
浦「それは残念でしたね。また写しに行かれたらどうですか。その時は私もぜひ一緒にお願いしたいと思います。」
浦「平本さん先日はふたりと一緒していただいて有がたございました。おふたりがよろしくお伝え下さいと言っておられます。撮影はいかがでしたか？」
平本「あの時、僕はとてもお腹が空いたので、17時におふたりにお弁当にしませんかと言ったら、ちょっと待って下さいとのこと。とうとうすき腹をかかえて30分ほど待ってやっとお昼になりました。それから、おふたりがスポンを泥に汚しても平気で写しているのにびっくりしました。またどうせお昼から使うことがわかっているのに昼休み中にカメラの手入れをされてカメラがピカピカ。道具を大切にされるのには心打られましたね。」
浦「僕は写真を始めて日が浅いので、おふたりと撮影に行くと、いろいろ勉強させてもらい本当に楽しい一日でした。是非またご一緒したいと思いました。おふたりも他の皆さんともいっしょに行ける機会があるといいと思いますね。」
浦「今度はぜひ私もつれて行って下さいね。」
平本「はい、6月にまた行きたいと思っています。その時はおふたりに連絡しますが、浦さんもどうぞ。」